

全日本実業柔道団体対抗大会報告書

男子第一部は旭化成Aが 5年ぶり13度目の優勝 女子第一部はコマツが 2年ぶり9度目の優勝を達成

満々たる水量を湛える北上川流域の美しい田園都市、岩手県北上市に於いて6月2日(土)、3日(日)の両日、東日本大震災復興祈念「厚生労働大臣杯争奪」第62回全日本実業柔道団体対抗大会」が開催された。

参加チームは前回より9チーム増加の106。今夏開催されるロンドンオリンピック代表選手も多数参加し、6試合場で繰り上げられる熱い戦いにチームの応援団、地元の観客等の歓声が岩手県北上総合体育館内に響き渡った。岩手県では



村井 温副会長



上村春樹全柔連会長

平成4年以来20年ぶり3度目の開催である。開会式では年間最優秀選手の表彰があった。男子選手に贈られる永野重雄賞は該当者無し。女子選手への宮崎輝賞は、昨年8月の世界選手権バリ大会優勝、12月のグラندスラム東京大会優勝の浅見八瑠奈選手(コマツ)が受賞した。

大会初日は男子第三部と女子第一部の試合が行われた。男子第三部決勝は東北6県特別参加枠の地元岩手県勢の対戦となった。共に強豪との接戦を勝ち抜いて勝ち上がった両チームであるが、重量級の比率の高い岩手県警察が盛岡少年刑務所を3対1で降し優勝を遂げた。

3チームによるリーグ戦で行われた女子第一部は、コマツ、三井住友海上火災保険共に、ロンドンオリンピック代表選

手を温存して試合に臨んだ。結果、選手層の厚いコマツが、自衛隊体育学校、三井住友海上火災保険を大差で退けて王座を奪還、2年ぶり9度目の優勝を達成した。準優勝は昨年の覇者自衛隊体育学校。

大会二日目は、男子第一部、同第二部と女子第二部の試合が行われた。男子第一部は暫し優勝から遠ざかっていた旭化成Aが、強豪日本中央競馬会との準決勝戦を、中堅戦での勝利確定というワンサイドゲームで降して勢いに乗り、ロンドンオリンピック100kg超級代表の上川を擁する京葉ガスとの決勝戦では、新人選手の大活躍で5年ぶり、涙のV13。

男子第二部は、昨年男子第一部から降格した九州電力と東レ滋賀が地力を発揮して決勝戦に駒を進めた。決勝戦では、九州電力がこの5月の選抜体重別選手権大会



高橋敏彦北上市長



開会式

100kg超級チャンピオン七戸の大活躍で、東レ滋賀を振り切って初優勝し、第一部復帰に花を添えた。準優勝の東レ滋賀に加え、準決勝進出の高宮接骨院とパーク24の4チームが来年の第一部出場権を獲得した。パーク24は出場3回目にして第一部昇格という破格の躍進である。

女子第二部は日本エースサポートと今年創部のJ.R九州との決勝戦になり、日本エースサポートの石川選手がパワーを発揮し、自軍に嬉しい初優勝をもたらした。尚、来年度の第63回大会は、6月15日(土)、16日(日)の2日間、岡山市の桃太郎アリーナに於いて挙行される。

男子第一部

旭化成A5年ぶり13度目の優勝 90kg級吉田が大將戦で上川を一 本勝で破り、優勝に花を添える

決勝戦は、4年ぶりに決勝戦へ進出した旭化成Aと、実に18年ぶり進出の京葉ガスとの戦い、共に久しぶりの優勝を争う両雄による興味深い一戦。旭化成Aはベテランと新鋭を巧みに配した布陣で、順調に勝ち上がる。一方の京葉ガスはオリンピック代表の上川を2回戦から起用。その上川はALSOCKとの準決勝戦において、代表戦で生田を一蹴、オリンピック代表の実力を見せてチームを決勝戦に導く。

尚、試合時間は男女とも第一部は5分。(その他の部は4分間。)



副将戦 高井 技有 花本

先鋒戦は、共に左組みながら、長身の増淵が左奥襟を狙うが容易に果たせず、不十分な体勢から得意の内股、払腰を仕掛ける。増淵の主導を嫌う手塚は、組み際の左払巻込で局面打開に努める。一進一退の攻防も中盤に差し掛かる1分55秒には、手数少ない手塚に指導1。その後、増淵の内左股、左払腰も空回りに終わり、手塚の技も効果もなく時間となり引分。

次鋒戦。京葉ガス須藤は右組み、旭化成A西潟が左組みのケンカ組手。上背で勝る西潟は奥襟を押さえ徐々に圧力を掛ける。守勢に回った須藤に1分30秒に一つ目の指導。中盤、須藤得意の低い右背負投を西潟はよく防ぐ。その後、西潟の左内股は惜しくも場外。終盤に差し掛かる3分19秒には、須藤の低い右背負投がすっぽ抜けて、偽装攻撃で二つ目の指導となる。ポイントをリードした西潟は勢いを増して攻め続け、4分に指導3を奪う。猶も西潟は前に出て、場外に下がった須藤に場外注意。終了間際、遂に指導4となり須藤が反則負けを喫す。

中堅戦は、新人同士、共に同じ学窓を単立した同級生の対戦。寺島は組み際、カウンター狙いの右背負投、右内股を仕掛けるが、体格に優る百瀬は動じず、徐々に圧力を掛けて前に出る。それに屈して後ろに下がる寺島に2分丁度に指導1。百瀬は手数で寺島に劣るものの終始圧力を掛け続け、3分7秒に指導2、4分38秒には寺島の偽装攻撃により指導3まで奪い、そのまま時間。旭化成Aが5年ぶりの優勝に王手を掛ける。

副将戦。挽回を期す京葉ガスの中量級花本は、巨漢旭化成A高井に対して激しく動き、高井を攪乱する。歴戦のベテラン高井は、これを冷静に組み止め、53秒に左大内刈から

押し込んで、得意の左ケンケン内股で有効を奪う。高井は勢いに乗って攻勢を続け、守勢となった花本に1分16秒に指導1。その後、花本は幾度も得意の低い右背負投で高井の股にもぐり込むも、高井はこれをよく受け切る。一方、高井は内股で幾度も花本を腹這いにさせるが、こちらも効果無し。終盤、両者に激しい攻防があり、花本の右小外刈を高井が左内股で切り返して4分16秒に技有を奪う。決勝点ともいえる貴重なポイントを奪った高井は、その後の花本の低い背負投の猛攻にぐらつくもよく防いで試合終了。旭化成Aの5年ぶりの優勝決定。

大將戦。勝敗は既に決するも、ロンドンオリンピック100kg超級代表の京葉ガス



男子第一部優勝 旭化成Aチーム

上川対旭化成A期待の90kg級吉田の新人同士の興味深い対戦。共に右組み。吉田は開始より上川の得意の組手を許さず技を封じる。開始48秒には吉田が寝技で抑え込みの絶好のチャンスを得るが、上川は伏せて辛くも危地を脱する。試合は吉田のペースで展開し、2分14秒には、釣手を封じられ技を仕掛けることができない上川に指導1。その後上川は得意の組手を得られず時間が経過。そして、吉田のペースで迎えた3分5秒、吉田が棒立ち然の上川の一瞬の隙を逃さず、場外際から低く潜り込むような体落に入れば、上川は吉田の背中越しにくるりと回って一回転。旭化成Aの5年ぶりの優勝に花を添える吉田の見事な一本勝。

優勝コメント

旭化成監督 齋藤制剛

第62回全日本実業柔道団体対抗大会に於きまして5年振りに優勝できたことを大変嬉しく感じています。

毎年、団体日本一を目標に選手強化をしてまいりましたが、ここ数年は準決勝の壁を破ることができず、大変苦しい日々が続いておりました。

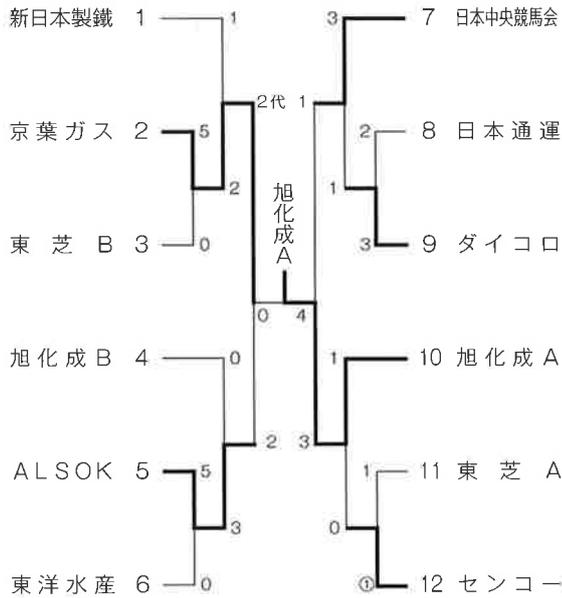
選手一人一人が悔しく、苦しい思いを胸に刻み、稽古に励んできたことが試合で爆発したのではないかと考えております。

思うような結果を出せないなかでも、強化をさせて頂いた会社の理解や、日頃より選手を応援して頂き、当日も遠く岩手まで駆け付けて頂いた職場の皆さんのお力添えがあつて達成できた結果だと切に感じております。

最後になりますが、今大会の優勝を自信に変え、更なる飛躍ができるよう精進してまいります。

男子第一部成績表

優勝 旭化成 A
準優勝 京葉ガス
第3位 日本中央競馬会
第3位 A L S O K



東芝B、旭化成B、日本通運、東芝Aの4チームは
次年度第二部に降格する

【準決勝】

第1試合

京葉ガス 2代-2 A L S O K
手塚龍大 3段 指導 2 小林大輔 4段⊖
○上川大樹 4段 大外刈 法兼 真 5段
林立峰 4段 内股 生田秀和 6段○
須藤紘司 4段 —×— 今井敏博 4段
⊖花本隆司 3段 有 効 熊代佑輔 3段
○上川大樹 4段 払 腰 生田秀和 6段
(代表戦)

第2試合

日本中央競馬会 1-3 旭化成 A
山本宜秀 3段 負傷勝 吉田優也 3段○
池田賢生 2段 技 有 百瀬 優 3段⊖
片渕慎弥 4段 隅 落 西潟健太 3段○
○石井竜太 3段 大外刈 大鋸 新 5段
佐藤充弘 4段 —×— 高井洋平 4段

【決勝】

京葉ガス 0-4 旭化成 A
手塚龍大 3段 —×— 増 淵 樹 4段
須藤紘司 4段 反則勝 西潟健太 3段○
寺島克興 4段 指導 3 百瀬 優 3段⊖
花本隆司 3段 技 有 高井洋平 4段⊖
上川大樹 4段 背負投 吉田優也 3段○

平成23年度 年間最優秀選手



〔永野重雄賞〕

該当者なし

〔宮崎 輝賞〕

浅見八瑠奈 (コ マ ツ)

〔功労賞〕 15回出場

戸澤敏之 (ミ ナ ミ)

織茂道夫 (東京消防庁)

尾本裕也 (九州電力)

優秀選手

〔男子〕

第一部

西潟健太 (旭化成 A)

吉田優也 (旭化成 A)

花本隆司 (京葉ガス)

生田秀和 (ALSOK)

石井竜太 (日本中央競馬会)

七戸 龍 (九州電力)

川波慎太郎 (九州電力)

青木和明 (東レ滋賀)

朝比奈竜太郎 (高宮接骨院)

延城啓和 (パーク24)

西城友幸 (岩手県警察)

橋本憲宗 (岩手県警察)

三浦哲也 (盛岡少年刑務所)

岩井 学 (アイバンセキュリティ)

手島尚宏 (センコー)

〔女子〕

第一部

谷本育実 (コマツ)

大野陽子 (コマツ)

平井 希 (自衛隊体育学校)

石川笑美子 (日本エースサポート)

広村麻衣 (日本エースサポート)

野関晴菜 (J.R九州)

第二部

男子第二部

九州電力が七戸の活躍で危なげなく勝ち進み、堂々の初優勝

本大会出場3回目のパーク24は第3位入賞で第一部昇格を果たす

パーク24を代表戦による接戦を制して決勝戦進出した東レ滋賀と今年の選抜体重別選手権大会100kg超級優勝の七戸の大車輪の活躍で危なげなく準決勝戦に勝ち上がった九州電力との決勝戦。共に西日本勢同士、伝統を誇る両チームによる二戦。

先鋒戦は、暫し共に組み合わない時を経ること開始32秒、体重で劣る九州電力近藤は右組みで東レ滋賀河井を組み止めるや、身体を沈めて右背負投で河井を担げば、河井はたまたま背中から一回転して畳に落下。近藤の電光石火の早業で九州電力が先良く先制する。次鋒戦。準決勝戦までの3試合を全て異なる技による一本勝の九州電力七戸がほぼ同じ体型の東レ滋賀角と対戦。角左組み、七戸右のケンカ組手の両者は、互いに自分の有利な組手に拘る。しかし、徐々に七戸の圧力が勝り始めた1分15秒、組み合わない角に指導1が与えられる。ほどなく、左引手をしっかりと握った七戸が場外際でいったん技に入る動作で角を揺さぶつて後、長い足を角の股下に差し入れて大きく跳ね上げる。角は左足を上げてこれをおろそうとするも、七戸の引手強く、そのまま引き付けられて大きく転がる。九州電力が連続二本勝で優勝に王手を掛ける。

中堅戦は、右組み同士。準決勝戦におけるパーク24との代表戦で勝利を収め、決勝戦に進出の立役者となった東レ滋賀の新人青木は自護体から右払巻込、左巻込小内刈を仕掛ける。これを準決勝戦から出場し、スタミナ十分の九州電力山本は難なくかわす。山本は何とか得意の背負投の機会を得ようと足技で青木を揺さぶるが、重心の低い青木にじ

つくり構えられ、それを果たせず。共に決め手無く時間が経過し引分。

副将戦は、ここまで勝ち点を積み重ねて来た東レ滋賀黒澤と九州電力川波の比較的軽いクラス対戦。左組みの両者は、自分の組手を求めて共に激しい動きを見せる。両者時間一杯激しく動き回るも技の仕掛けは散発。そのままブザーが鳴り、九州電力の第二部初優勝が確定する。

大将戦。東レ滋賀の新人、巨漢の増子が一矢報いんと九州電力のベテラン森に挑む。左組み同士であるも、13cmの身長差を利用して増子は森の奥襟を狙うと、森はこれを嫌い巧みに振りほどく。攻撃の止んだ両者に指導1が与えられてほどなく、増子は森の左前襟を右引手で掴んだ姿勢から、右に大きく回り込むと同時に、左釣手を森の頭越しに回し、森の左肩辺りを掴むや否や左足を飛ばして払腰から巻込めば、1分45秒、森はたまたまらずもんどりうって大きく畳に落ちる。増子、豪快な二本勝で二矢を報いる。

優勝コメント

九州電力監督 江上忠孝

本年1月より監督に就任し、「今年は、結果に拘ろう」と部員一同、「思いをひとつ」に仕事と柔道の両立を図りながら厳しい練習を行ってきました。

その結果、本大会では入社2年目の七戸龍（平成24年度全日本選抜優勝）の活躍もありましたが、他の4名の選手たちも、全員がポイントを取りに行く積極的な柔道を展開し、創部以来2度目の二部優勝を成し遂げることができました。

次年度は、当部の目標である「部ベスト4以上」を目指すことと、個人としては柔道を通じて自己研鑽に励み、その中で得たものを世の中に役立たせるといふ高い志を持ち、更なる努力を積み重ねていきたいと思っております。最後に、日頃から当社柔道部を応援いただいている、職場、後援会、OB、そして地元九州の皆さま方に対し、心から感謝申し上げますとともに、今後、益々のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



男子第二部優勝 九州電力チーム



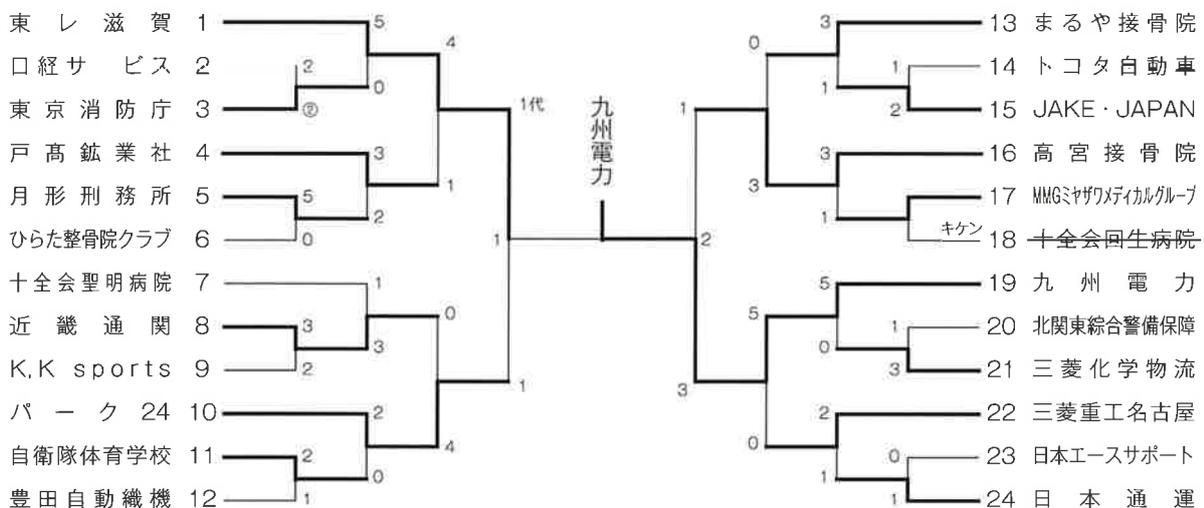
【決勝】

東レ滋賀	1-2	九州電力
河井修二	3段 背負投	近藤雅和 3段○
角明典	3段 内股	七戸龍 3段○
青木和明	3段 —×—	山本泰三 3段
黒澤平	3段 —×—	川波慎太郎 5段
○増子洋平	3段 払巻込	森俊介 3段

男子第二部成績表

優勝	九州電力	第3位	高宮接骨院
準優勝	東レ滋賀	第3位	パーク24

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



男子第三部

頑張れ東北！ 岩手県勢同士が 堂々決勝戦で対戦 体格で勝る岩手県警察が 盛岡少年刑務所を降して優勝

51チームでの優勝争い。地元特別参加の岩手県勢が実業柔道の強豪チームを次々に打ち破って、共に決勝戦で相まみえる。地元観客待望の決勝戦。

先鋒戦。中量級の盛岡少年刑務所の佐藤は、体重差37kg差の岩手県警察の畠山と組み合わず、21秒に指導1を受ける。その後佐藤は、左組みから前に圧力を掛ける畠山に押され、守勢を続けて1分36秒指導2。その後、佐藤は低い右背負投で反撃を試みるが畠山に簡単に潰される。猶も守勢の佐藤に2分21秒指導3。続く2分59秒には、佐藤は右背負投から戻るところを畠山に合されて有効を奪われる。その後も畠山は押しまくるが、佐藤も終盤は左一本背負投で応じて時間。岩手県警察が先取点を上げる。

次鋒戦。開始19秒、身長で大きく上回る盛岡少年刑務所の豊田が低い右背負投でしやがみ、元の体勢に戻る瞬間を、岩手県警察の小兵西城が左大外刈で押し込めば、豊田は真後ろに倒れて一本。岩手県警察がたちまち2点をリードして王手を掛ける。

中堅戦は、共に右組みながら自分の組手を求めて激しい攻防が続く。盛岡少年刑務所の法領田は、右背負投、巴投と手数多く、岩手県警察菅原は低い右背負投であわやと思わせるも、法領田はよく堪える。結局、共に決定打無く引分。

副将戦は左組みの盛岡少年刑務所三浦と右組みの岩手県警察本波との対戦。三浦は体格で一回り劣るも、積極的に前に出て、組まない本波に47秒と1分11秒に指導。その

後は両者左右の内股を交互に掛け合う展開。こうして三浦リードで迎えた2分47秒、三浦は場外際で左釣手を本波の奥襟に持ち替えるや、左内股を仕掛け、場外に出た本波がこれを堪えるところを、体を捨て畳に着いた状態から右引手を引き付けて本波を横転させて技ありを奪う。以降は本波の逆襲が始まり、体格差を利用して右内股を連発するが、三浦はよくしのいで時間。盛岡少年刑務所が一矢報いる。

大将戦。ここまでの4試合をオール一本勝の岩手県警察の巨漢橋本が体格を生かして、左組みから盛岡少年刑務所の右組み菅原の奥襟を掴んで前に出、左払腰、大外刈で攻める。守勢を余儀なくされた菅原に、1分8秒、2分11秒、2分41秒、立て続けに指導が与えられ、菅原はたちまち絶対絶命の危機に陥る。試合終盤に入っても同じ展開が続くが、菅原は何と持ちこたえてブザー。橋本は一本を奪えないものも岩手県警察優勝の立役者を演じて、大会初日の幕を引く。



男子第三部優勝 岩手県警察チーム



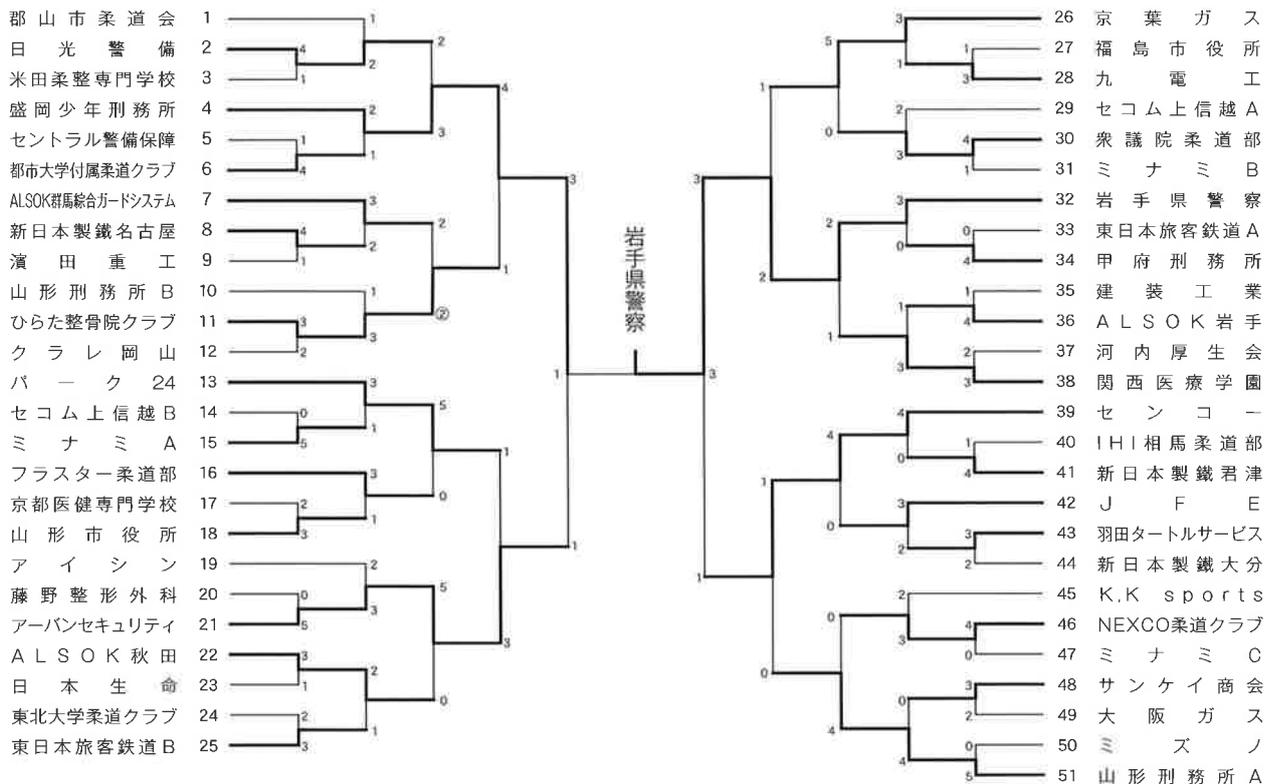
【決 勝】

盛岡少年刑務所	1-3	岩手県警察
佐藤文建	3段 指導 3	畠山 謙 3段○
豊田圭一郎	3段 内股すかし	西城友幸 3段○
法領田康幸	4段 —×—	菅原洋一 5段
○三浦哲也	3段 技 有	本波邦盛 4段
菅原義景	5段 指導 3	橋本 憲宗 4段○

男子第三部成績表

優勝	岩手県警察	第3位	セ ン コ ー
準優勝	盛岡少年刑務所	第3位	アーバンセキュリティ

ベスト8のチームは次年度第二部に昇格する



女子第一部

コマツが他を寄せ付けない強さで王座を奪還 コマツの新人大野は2戦2勝、大車輪の活躍

女子第一部は今年も3チームによる巴戦。ロンドンオリンピック代表の3選手は大会にエントリーするも、2か月後の本番を控え全員補欠に回る。その穴をベテラン、新鋭選手が補い、選手層の厚みを誇る日本女子柔道の今を象徴する戦いを繰り広げた。

第1試合 自衛隊体育学校対コマツ

先鋒戦。共に右組み。序盤は自衛隊体育学校の藤田が低い背負投、立ち背負投で盛んに攻撃するも、2分丁度に、コマツ石川は藤田が下がることを、奥襟を掴んで前に出ながら大内刈で鋭く刈り込んで一本勝を奪う。次鋒戦。57kg級シニア強化選手の両者、左右の組手争いにより引手を握れぬまま技を繰り出すも効果なし。終盤までは自衛隊体育学校の平井が攻勢に出て、コマツ宇高から指導1を奪う。しかし、宇高は終盤になり攻勢に転じる。しかしそれまで、中堅戦。1クラス軽いコマツ谷本は、自衛隊体育学校の國原に終始攻められる。中盤に有効を奪った國原の勝利と思えた残り4秒前、谷本は左袖釣込腰から、右の片襟背負投に素早く反転して國原を崩した後、いち早く立ち上がって、体勢の崩れた國原を押し込んで技ありを奪い、逆転する。副将戦。コマツの新人大野は、試合開始早々から勢い込んで自衛隊体育学校に襲い掛かる。右引手を握るや否や左内股を仕掛け、思わず伏せた定形を力強く裏返して38秒抑え込み。直ちに袈裟固にしっかりと固めて電光石火の一本勝。ここで勝利確定となりコマツが昨年の雪辱を果たす。大将戦。上背で大きく上回るコマツ岡村は、自衛隊体育学校の池田から中盤過ぎに右小内刈で有効を奪われ、追う立場となるが、執拗に奥襟を取りに行き、残り26秒に左大内刈、同19秒に小外掛と連続で有効を奪って逆転勝。終わってみれば大差でコマツの勝利。

第2試合 コマツ対三井住友海上火災保険

先鋒戦。三井住友海上塩瀬は、コマツの石川とほぼ互角の戦いを続ける中、終盤の4分2秒に組み際の右一本背負投から右足で石川の右太腿の辺りを払って転がして有効を奪う。三井住友海上が先制。次鋒戦。序盤、組手争いに終始したコマツ宇高は、1分を過ぎる辺りから組手を支配し始めるや、攻勢に出て三井住友海上上村から指導3を奪い、コマツが逆転する。中堅戦。左右のケンカ組手の両者、引手を求めて半身の構えから攻撃の機会を窺う。時間の経過と共に次第にコマツ谷本が右背負投、右内股、左一本背負投等多彩な技で攻勢となり、指導1を奪う。しかし、三井住友海上阿部も左内股で応戦し、引分ける。副将戦。同じ左組手の三井住友海上新井に奥襟を封じられ、攻めあぐねていたコマツ大野は、中盤過ぎ、新井が左払腰に入ってきたところを、左一本背負投で攻め、体が崩れた新井をそのまま巻込んで横転させ技ありを奪う。大将戦。長身のコマツ岡村は、開始29秒に三井住友海上の新人稲森が場外付近で無造作に右内股に来るところを、深い股間の中で透かして技ありを奪う。続く1分20秒にも、今度は試合場中央で右内股を同様に透かして合せ技一本。

第3試合 自衛隊体育学校対三井住友海上火災保険

先鋒戦。共に左組み、同じ体型の両者の戦い。試合は自衛隊体育学校平井の攻勢で始まる。序盤に指導1を奪った平井は、1分15秒右小内刈から踵返で三井住友海上塩瀬を倒して有効を奪う。その後も互角に試合を進めて優勢勝。次鋒戦。同じ階級の両者、右組みの自衛隊体育学校藤田が主導権を握って、右の内股、背負投、大外刈、払腰で、左組みの三井住友海上上村を攻め、1分12秒に指導1を奪う。藤田はその後も攻勢に進め、残り10秒、右小内刈を上村が左内股で応じたところを、透かして横転させ有効を奪う。中堅戦。同年齢、体格もほぼ同じ、左右のケンカ組手の両者の対戦は、序盤は互角に戦うも、徐々に三井住友海上の阿部が攻勢を強め、自衛隊体育学校磯辺に2分に指導1。中盤以降は更に阿部は激しい左内股の攻撃が続き、4分12秒に指導2を奪う。三井住友海上が1点奪い返す。副将戦。ナショナルチーム強化選手の自衛隊体育学校國原に、三井住友海上の高卒新人新井が挑む。歴戦の國原は開始早々より勢い込んで新井を攻め、31秒に指導1を奪う。その後、若い新井は左の内股、足技で攻めるも、攻め所を押しさえた國原の組み際の右内股での攻撃に防御姿勢を余儀なくされる。その都度の1分41秒、4分40秒、指導を与えられ指導3を失う。大将戦。自衛隊体育学校池田は、体重で30kg近く上回る三井住友海上の稲森を攻めあぐねる。対する稲森もケンカ組手の池田の右袖を奪えず、両襟を持つての右内股も池田に

受け流される。池田の散発の左体落も効無し。ところが、両者互角で迎えた中盤の2分34秒、稲森が思い切った右内股に入ると、池田の股間を外れて自爆。池田絶妙な内股すかしで一本勝を奪う。

優勝コメント

コマツ監督 松岡義之

昨年は、5連覇という記録更新を懸け臨んだ大会において、あと一步のところまで優勝を逃し、団体戦というチーム戦に課題を残した。今年は、選手一人一人がしっかりと自分の役割を果たし、襷を繋いでいったことで両チームに圧勝し、優勝することができた。自分を信じ仲間を信じて今までやってきたことを出し切り、最後まで攻めの姿勢を貫いたことが勝因と言える。

また、今大会では復興支援大会として地元の方々がたくさん応援に駆けつけてくれた。応援席と選手が一体となり同じ目標に向かって時間を共有できたこともチームへの追い風となった。

今後とも連覇を重ねられるよう、更なるチーム力のアップを図りたい。



女子第一部優勝 コマツチーム



定形 袈裟固 大野○

【主な対戦結果】

自衛隊体育学校	0-4	コマツ
藤田康恵 2段	大外刈	石川 慈 3段○
平井 希 2段	—×—	宇高 菜 3段
國原 頼子 3段	技 有	谷本 育実 3段○
定形 美希 3段	袈裟固	大野 陽子 3段○
池田ひとみ 3段	有 効	岡村 智美 3段○
コマツ	3-1	三井住友海上火災保険
石川 慈 3段	有 効	塩瀬 絢子 3段○
○宇高 菜 3段	指導 3	上村 凜歩 3段
谷本 育実 3段	—×—	阿部 香菜 2段
○大野 陽子 3段	技 有	新井 千鶴 2段
○岡村 智美 3段	合せ技	稲森 奈見 初段

自衛隊体育学校	4-1	三井住友海上火災保険
○平井 希 2段	有 効	塩瀬 絢子 3段
○藤田 康恵 2段	有 効	上村 凜歩 3段
磯辺 友里 2段	指導 2	阿部 香菜 2段○
○國原 頼子 3段	指導 3	新井 千鶴 2段
○池田ひとみ 3段	内股すかし	稲森 奈見 初段

女子第一部成績表

	自衛隊体育学校	コマツ	三井住友海上	勝 負	順 位
自衛隊体育学校	△	○	○	1勝1敗	準優勝
コマツ	○	△	○	2勝0敗	優勝
三井住友海上	△	△	△	0勝2敗	第3位

女子第二部

西日本勢の決勝戦を日本エースサポートが制し、嬉しい初優勝 今年創部のJR九州は初陣を堂々の準優勝で飾る

女子第二部は、3連覇中のフォーリーフジャパンが欠場し、本命不在の中を抜け出した西日本勢の日本エースサポートと今年創部のJR九州の両チームが共に初優勝を賭けて決勝戦で対戦。今年5月の第52回西日本実業柔道団体対抗大会優勝のJR九州が返り討ちを果たすか、一敗地にまみれた日本エースサポートの雪辱なるか、興味深い一戦となった。

先鋒戦は、共に左組みから激しく動き回る。組み際に日本エースサポートの広村は左右の担ぎ投を、対するJR九州の古田は左払腰、左背負投、右一本背負投で、共に左右の技を駆使し合う展開。しかし、両者共に崩しが不十分で相手を脅かすに至らず。たちまち時間となって引分ける。

中堅戦。共に70kg級の気鋭の新人。長身の両者、序盤は互いに奥襟を狙うも、容易にこれを果たせず。中盤に入ると、JR九州の野関は徐々に力負けし不利な組手を余儀なくされるも、不十分な体勢から強引な大外刈を仕掛けて日本エースサポートの相手を脅かす。しかし、徐々に野関は相手の圧力に屈し始めて守勢となり、続けて指導2を受ける。ところが、野関は終盤になっても積極的に技を繰り出し、残り15秒、疲れの見えた相馬に指導1。猶もポイントリードを許す野関は不屈の闘志を見せ、残り10秒を切つて右小外刈で有効を奪い、遂にタイに持ち込む。最後まで技を繰り出した野関の執念の引分け。

大将戦。左右のケンカ組手。体重で12kg多い日本エースサポートの石川は体力にも

の只野を左前へ振り回す。只野はこれを難なくさばき、得意の体落で堂々応戦するも、体重差を利し、前に出、あるいは上から圧力を掛ける石川の前に印象が劣り、1分48秒と2分10秒に指導を受ける。終盤、只野はこの劣勢を挽回すべく、体落を連発するが今一步石川の堅い守りを崩すに至らず。只野は残り39秒で指導1を奪い返すも時間不足。空しくブザーが響き万事休す。日本エースサポートが死闘を制して嬉しい初優勝を遂げる。

優勝コメント 日本エースサポート監督 壹岐知則

本大会の女子第二部で初優勝出来たことは、本当に嬉しく思っております。

1回戦で相馬が左肩を負傷し厳しい状況でしたが、選手一人一人が自分の役割をきっちりすることが出来たので、2回戦から決勝までの接戦を制することが出来たと思います。

本大会では、優勝することが出来ましたが、まだまだ実力不足ですので来年も慢心することなく初心を忘れず頑張りたいと思います。

最後になりましたが、柔道部員の活動にご協力し支援いただいております職場の方々のお陰だと思っております。心より感謝申し上げます。



女子第二部優勝 日本エースサポートチーム

女子第二部成績表

優勝	日本エースサポート	第3位	JR東日本女子柔道部
準優勝	JR九州	第3位	丸順

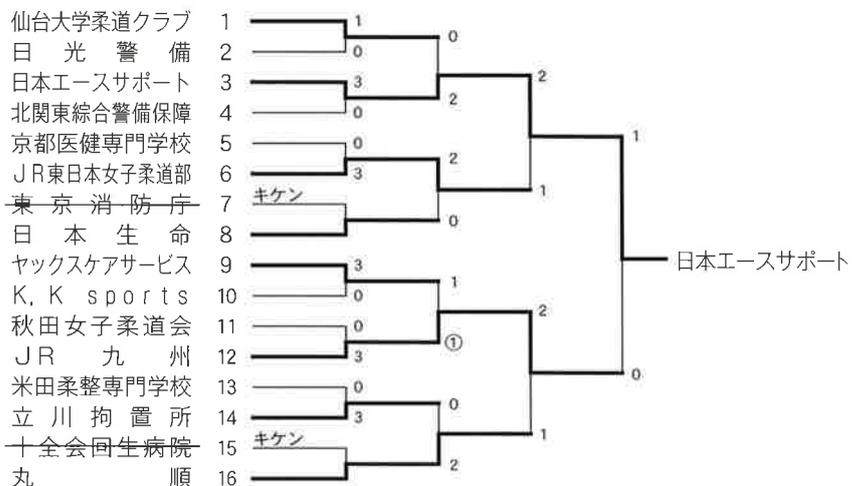
【準決勝】

日本エースサポート	2-1	JR東日本女子柔道部
◎広村麻衣 2段	指導 2	上原 円 3段
相馬奈穂 2段	反則勝	大住有加 3段○
○石川笑美子 3段	内股返	白石のどか 3段

JR九州	2-1	丸順
○古田恵莉 2段	上四方固	東 美穂 初段
○野関晴菜 2段	縦四方固	松井陽子 3段
只野真利枝 3段	合せ技	石山麻弥 2段○

【決勝】

日本エースサポート	1-0	JR九州
広村麻衣 2段	—×—	古田恵莉 2段
相馬奈穂 2段	—×—	野関晴菜 2段
◎石川笑美子 3段	指導 2	只野真利枝 3段



◎石川 指導 2 只野

第62回全日本実業柔道団体対抗大会 歓迎レセプション開催

6月2日(土)19時よりホテルシテイプラザ北上「銀河の間」において、第62回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプションが盛大に行われた。

当夜は(公財)全日本柔道連盟の上村春樹会長始め、多数のご来賓、大会役員、競技役員、並びに地元関係団体代表者など総勢130余名の参加があり、歓迎ムード漂う中、和やかな雰囲気ですレセプションが挙行された。

式典は宗岡正二会長の挨拶から始まる。会長は東北地方を中心に襲った大震災のお見舞いと一日も早い復旧、復興祈念のメッセージを述べられた後、本大会開催に尽力された地元関係各位への謝意を表明された。そして、実業柔道の本旨である柔道を通じて立派な社会人を養成することの意義を語られた。

その後、岩手県柔道連盟千葉翠会長の歓迎のご挨拶があり、続いて昨年の第61回大会の開催地愛媛県を代表して(財)愛媛県柔道協会の河野賢副理事長に宗岡会長から感謝状と記念品が贈呈された。そして村井温連盟副会長ご発声による乾杯で祝宴に入った。

宴が始まると、岩手県の山海の珍味と地酒が振る舞われ、次第に会場は和気藹々の親睦ムードに染まる。酔いが回る頃には至る所で全国各地のお国言葉が飛び交い始める。宴も最高潮に達するタイミングを見計らって、司会者が次年度開催地の岡山県柔道連盟内野幸重会長を紹介。内野会長は岡山が古来より尚武の地であることを披露され、大会を機に昔日の隆盛を取り戻せることを期待され、併せて次期大会に向けた強い決意を表明。締めくくりに「晴れの国岡山」へ歓迎のメッセージを寄せられた。

そしていよいよ宴もお開きの刻を迎え、本大会の開催準備を担われた北上市柔道協会佐藤良夫会長が登壇。佐藤会長は万歳三唱に先立ち、本大会開催の喜びと感謝、そして復興へ向けた決意を熱く語られた。万歳三唱の後もテーブルのここかしこで名残の小宴が続く、第62回大会歓迎レセプションは、宴の後の余韻をとどめつつ次第にその幕を降ろした。

第62回全日本実業柔道団体対抗大会 少年柔道教室開催

第62回全日本実業柔道団体対抗大会の閉会式終了後の6月3日(日)午後3時15分から少年柔道教室が開催された。オリンピック2大会連続メダリストの上野雅恵選手(現三井住友海上コーチ)を始め当連盟所属のオリンピック、世界選手権大会メダリスト14名が、岩手県及び近隣県から参加した180名の少年少女達に約1時間の指導を行った。

全体進行を1996年アトランタオリンピック71kg級ゴールドメダリストの中村兼三全柔連強化コーチ(旭化成)が担当。準備体操の後、中村コーチ指名のメダリストが得意技を披露。続いて、希望する少年数人が、メダリストを指名し自分の得意技を見せたい、そのメダリストがマイクをもってアドバイスを行った後、全体に散開して個々に指導。

その後、メダリストを元立ちとする乱取。少年達が小さい順に1分交替で、全員がメダリストと乱取りする経験をした。



真剣な少年少女達

最後にオリンピック代表選手の紹介とともに各選手が抱負を述べ、質問コーナーでは挙手した少年達がメダリストを指名している。いろいろな質問を浴びせると、メダリストも笑顔で答え、会場は爆笑が渦巻いた。中村コーチもユニフォームを交えて司会し、少年達にとっては思い出に残る楽しい一刻となった。

第6回東アジア柔道選手権大会 結果報告 (海外派遣事業)

平成24年度の海外派遣事業として、5月19・20日韓国・コチャンにおいて開催された第6回東アジア柔道選手権大会に団長以下18名の日本選手団を派遣した。参加国は8ヶ国、出場選手は96名(男子48名、女子48名)であった。

<役員>

	氏名	会社名
団長兼審判員	諏訪 剛	京業ガス(株)
監督	岡泉 茂	新日本製鐵(株)
コーチ(男子)	中濱 真吾	京業ガス(株)
コーチ(女子)	山田 利彦	学校法人了徳寺学園

<選手>

階級	氏名	会社名	成績
100kg超級	辻 玄太	旭化成(株)	3位
100kg級	野田 嘉明	旭化成(株)	3位
90kg級	花本 隆司	京業ガス(株)	3位
81kg級	垣田 恭兵	旭化成(株)	3位
73kg級	赤迫 佑介	自衛隊体育学校	3位
66kg級	青木 勇介	パーク24(株)	優勝
60kg級	豎山 剛	鹿情報教	3位
78kg超級	新田沙也加	日本エースサポート(株)	2位
78kg級	渡邊 美奈	学校法人了徳寺学園	3位
70kg級	川上 由貴	(株)フォーリーフジャパン	3位
63kg級	貝沼麻衣子	JR東日本グループ	3位
57kg級	広村 麻衣	日本エースサポート(株)	優勝
52kg級	小島 愛子	自衛隊体育学校	3位
48kg級	濱口 光	学校法人了徳寺学園	3位

○発行日 2012年7月25日 ○発行 全日本実業柔道連盟
○発行人 事務局長 郷田博史 ○印刷 タイコ口株式会社



少年柔道教室参加者

「定時総会」開催される

第51回定時総会及び平成24年度理事会は、平成24年6月1日(金)午後4時30分から北上市のホテルシテイプラザ北上「銀河の間」にて開催された。総会は218社の加盟企業中、154社の出席(委任状提出分含む)、理事会は58名の定足数全員(委任状提出分含む)の出席により成立。議長には水永正憲理事長が選出され、第1号議案から第5号議案について満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成23年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成23年度収入支出決算承認の件
- 第3号議案 平成24年度事業計画承認の件
- 第4号議案 平成24年度収入支出予算案承認の件
- 第5号議案 平成24年度役員改選の件